

## テーマ：「20年後の大学キャンパス」

### 1. テーマ選定理由

#### ●大学の役割

大学の役割について議論したところ、「教育」「研究」、そして「社会貢献」の3つが挙げられた。今後、各大学には今まで以上に「社会貢献」の強化が求められるようになる。

#### ●大学の現状と目指すところとの差異

社会の変化により、大学を取り巻く環境も変わる。現在、多くの大学のビジネスモデルはいわゆる「伝統学生（18歳から22歳の学生）」が中心のものであるが、今後は社会状況に対応したビジネスモデルの構築が必要だと考えた。

また、それぞれの大学ごとの特色はあっても、地域社会には見えにくいものである。多くの大学が今も「社会貢献」の一環として一般向けのイベントやセミナーを開催しているが、それが一方的な発信になっていないだろうか。社会のニーズに合った真の意味での「社会貢献」になるように見直し、努力する必要がある。

### 2. 問題点の深堀とイノベーションの提案

#### ●20年後の社会と大学

私たち職員が中核となって大学を運営する20年後は、どのような社会か？

- ・60歳以上の人口が総人口の4割を占める「超高齢化社会」となっている。
  - ・女性の働きづらい社会、核家族化やコミュニケーションの希薄化などが進んでいる
- これらの問題をふまえて、社会の機能を集約したキャンパスを実現できないかと考えた。

#### ●社会問題をふまえた新しいビジネスモデル

大学は閉ざされた場所ではなく、「地域社会のオアシス」のような場所になれないか。

- ・学生減少に伴って生まれる大学の余剰施設を有効活用し、大学をオープンスペース化  
→地域社会の方が集まることによって、人が集い、刺激を与えあう場となる。
- ・大学生にとっても、学んだ内容をアウトプットする場が必要  
→大学の特色や研究内容を生かしたイベント等を開催することにより、学生にとっても新たな学びの場となる。

#### ●実際の運用モデル

例えば大学の施設に下記のような機能を集約することで、社会貢献を行う。

- ・老人ホームを誘致…健康寿命の維持、学びの機会を保証することができる。
- ・保育園を誘致…働く女性を支援する機能にもなり、通う幼児は兄弟が少ない場合も、大学という場で学ぶことで広い世代から刺激を受けることができる。

大学生が地域社会と触れ合い、知識をアウトプットできるだけでなく、地域の情報を集約し、より実用的な研究を行いやすい。市民の方にも教育機会を提供できる。

●20年後の大学生の時間割

具体的に、私たちは20年後の学生の時間割を考えた。

月	火	水	木	金	土	日
スポーツとヨガ	最新ICT 指導講座		英語Ⅲ	日本史		茶道会 (サークル) 全年齢対象
	英語Ⅰ	児童の 発達・教育	コミュニケーション 基礎論	経済学		子供向け 理科実験 教室
〇〇大学の 歴史	子供×学生 英会話教室	子育て世代の コミュニケーション の場と提供	地域住民 による オープンスペース でのカフェ	日本の 未来		学内の農園 (野菜作り)
落研 (サークル)		地域産業 の民芸品所 でランニング		終活の ススメ	大学技術 の 依拠講座	

例えば様々な世代と一緒に「終活」を考えて学ぶ、地域の伝統芸能を担う方から学ぶ機会を設ける、地域の方も大学のサークル活動に参加できるなど、「大学に在籍する学生」「大学に訪れる地域社会の方」双方にとって魅力的なプログラムや学びの場をセッティングすることで、大学のキャンパスはよりよい学びの場所となる。

●そして、そのとき私たち教職員の役割はどう変化するか？

教員は「研究者」から「教育者」へ、職員は「事務職員」から「コーディネーター」になることが必要とされる。

3. ICTの活用

大学をオープンな場として開放するためには、いくつかの問題点やハードルがあるが、ここでICTを活用することでより円滑な運営ができると考えた。

【金銭的な問題】

スポンサー企業を獲得して企業と連携し、講義を受けた学生に活用してもらえる商品のサンプルを自動配布できるシステムを開発する。大学は情報を集約し、企業にとって戦略的な情報を提供するなどして、企業側にもメリットになるのでお互いがWin-Winな関係に。

【セキュリティ】

防犯カメラや顔認証システムなどを導入し、危険が生じている可能性をすばやく察知し、迅速に学内へ周知できるようにする。

【地域社会にとって大学に来るメリットがない】

来学者が使用できる開けたポータルサイトを運用する（イベントや講義の感想を書き込める、情報共有や交流ができる）。私たちはポータルサイトの情報を集約して、より地域社会のニーズにあったプログラムを考えることができる。